# 2015 年に輸入検疫で発見された主な重要病害虫

2015 年我が国には、貨物 62.1 万件、携帯品 31.6 万件、国際郵便物 12.3 万件、計 106 万件の植物類が輸入されている。これらの植物からは、輸入検査等の結果、我が国が海外からの侵入を警戒している重要な病害虫が数多く発見されている（表）。特に輸入禁止対象病害虫は携帯品・郵便物として輸入される生果実から発見されることが多い。このため、植物防疫所では、植物検疫制度と輸入が禁止されている生果実等があることの周知・啓発を行い、病害虫の侵入阻止に努めている。（本記事内容は速報値に基づく）

| | 病害虫名 | 発見件数 | 発見植物 | 輸出国・地域 | 輸入形態 |
|---|---|---|---|---|---|
| 輸入禁止対象病害虫 | *Bactrocera dorsalis* species complex ミカンコミバエ種群 | (234 件) | グアバ生果実、マンゴー生果実、レンブ生果実、パンレイシ生果実、トウガラシ生果実、その他生果実 27 種 | ベトナム、フィリピン、タイ、インドネシア、中国、その他 6 か国 | 携帯品・郵便物・貨物 |
| | *Bactrocera cucurbitae* ウリミバエ | (25 件) | ニガウリ生果実、キュウリ生果実、トカドヘチマ生果実、カクロール生果実、ササゲ生果実、ヘチマ生果実、その他生果実 3 種 | タイ、フィリピン、インド、ネパール、ベトナム、その他 4 か国 | 携帯品 |
| | *Cylas formicarius* アリモドキゾウムシ | (2 件) | サツマイモ | フィリピン | 携帯品 |
| | *Ceratitis capitata* チチュウカイミバエ | (1 件) | トウガラシ生果実 | 英国 | 携帯品 |
| 特定重要病害虫 | *Diabrotica undecimpunctata* ジュウイチホシウリハムシ | (5 件) | ロメインレタス茎葉、カラシナ茎葉、チシャ茎葉、フダンソウ茎葉 | 米国 | 貨物 |
| | *Elasmopalpus lignosellus* モロコシマダラメイガ | (4 件) | アスパラガス | メキシコ、ペルー | 貨物 |
| | *Zabrotes subfasciatus* ブラジルマメゾウムシ | (1 件) | オクラ種子 | インド | 貨物 |
| 重要病害虫 | *Bactrocera latifrons* ナスミバエ | (255 件) | トウガラシ生果実、トウガラシ属生果実、ナス属生果実、ナス生果実、キダチトウガラシ生果実、キンギンナスビ生果実 | タイ、ベトナム、ネパール、フィリピン、マレーシア、その他 9 か国 | 携帯品・郵便物 |
| | *Pseudococcus calceolariae* ガハニコナカイガラムシ | (79 件) | オレンジ生果実、レモン生果実、グレープフルーツ生果実、キウイフルーツ生果実、ブルーベリー生果実、ライム生果実 | オーストラリア、チリ、ニュージーランド | 貨物 |
| | *Liriomyza langei* ハモグリバエ科の一種 | (72 件) | セロリー茎葉、ロメインレタス茎葉、レタス茎葉、ブロッコリー茎葉、エンドウ生果実 | 米国 | 貨物 |
| | *Bactrocera correcta* セグロモモミバエ | (64 件) | グアバ生果実、スターアップル生果実、マンゴー生果実、アセロラ生果実、インドナツメ生果実、その他生果実 9 種 | ベトナム、タイ、ミャンマー、フィリピン、ラオス | 携帯品 |
| | *Heliothis virescens* ニセアメリカタバコガ | (57 件) | アスパラガス、エンドウ生果実、オレガノ茎葉 | メキシコ、ペルー | 貨物 |
| | *Uromyces betae* テンサイさび病菌 | (35 件) | テンサイ種子、フダンソウ属種子 | 米国、ニュージーランド、フランス、イタリア、デンマーク | 携帯品・郵便物・貨物 |
| | *Delia radicum* キャベツハナバエ | (31 件) | メキャベツ茎葉、ブロッコリー茎葉、ルタバカ、カブラタマナ茎葉、チリメンカンラン茎葉 | オランダ、米国、イタリア、ドイツ、ベルギー、ポルトガル、メキシコ | 貨物 |
| | その他の重要病害虫 | (108 件) | アスパラガス、ライム生果実、セイヨウカボチャ生果実、トウモロコシ属生果実、ピーマン生果実、その他 31 種 | メキシコ、ペルー、ニュージーランド、米国、中国、その他 16 か国 | 携帯品・郵便物・貨物 |

# 海外のニュース

## －分布を拡大する*Tuta absoluta* トマトキバガ（仮称）－

トマトキバガ（仮称）はチョウ目キバガ科の小型種（開張約 10mm）で、トマト地上部を加害する害虫として知られている。原産地は南米で、そのほぼ全域に分布しているが、2006 年、スペインに侵入した後、2008 年にアルジェリア、イタリア、フランスなどヨーロッパ南部、アフリカ北部などの地中海沿岸諸国で急速に分布を拡大し、2009 年にはイギリス、オランダなどでも確認された（本誌 90 号）。

本種の加害を受けたトマトでは、商品価値の低下により 50 ～ 100 %の減収となった例もあり、発生国周辺の各国はその侵入を警戒していたが、その後、アフリカでは中部へと分布を拡大し、セネガル、エチオピア、ケニア等で発生が確認された。中東では南東部へ分布を拡大し、トルコ、イスラエル、イラク、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、イラン等、ほぼ全域で発生が確認され、アジアでは 2014 年 10 月、インド西部での発生が確認されている。

本種の移動分散について、自力による飛翔や風に乗り数 km 移動できることが知られている。また人為的な要因としては、トマトをはじめとする寄主植物の栽培用苗類や、トマト生果実に付着した移動のほか、ジャガイモ塊茎の移動に伴う分散の報告もある。

当該虫は、先般の省令等の改正（平成 28 年 5 月 24 日公布）で、輸出国における栽培地検査が必要な検疫有害動植物に新たに追加され、本種の発生国からトマト等の寄主植物を輸入する際には、輸出国が行う栽培地での検査によって、本種が発生していない事を確認することとなった。これにより当該虫に対する我が国の検疫措置が強化され、侵入の防止に万全を期すこととしている。

発　行　所　　横浜植物防疫所
発　行　人　　小野　仁
編集責任者　　塚本　貴敬
掲載　植物防疫所ホームページ
http://www.maff.go.jp/pps/j/guidance/pestinfo/index.html
無断転載禁止



農林水産省